

伊東豊雄ミュージアム

2011 年に開館した伊東豊雄建築ミュージアムは、愛媛県の大三島にあるユニークな場所です。著名な建築家である伊東豊雄はミュージアムを2棟構成で設計しています。スティールハットと名付けられた第1の建物は、多面体がブロックのように組み合わさったものの集合体のようになっています。これは伊東の作品であるオスロのダイヒマン図書館の設計に基づいています。スティールハットの中には個別に分けられた5つのスペースがあり、伊東により選ばれた定期的に変わる展示の場所となります。驚くほど広いスペースの中を歩くと方向感覚を失ってしまうかもしれません—純粋に垂直な壁はほとんどなく、窓や廊下は予期せぬ場所から開きます。

第2の建物、シルバーハットは1984年に伊東が設計した東京の旧自邸のレプリカです。薄いヴォールト屋根で覆われたシルバーハットは自然光がふんだんに注ぎ込むオープンスペースで、瀬戸内海に佇むために作られたように見えます。伊東の初期の名作として知られるオリジナルのシルバーハットは未公開だったため、伊東はすべての人が楽しめるようにとこのレプリカを作りました。

シルバーハットの内部には鮮やかな色の三角形のスカイライトと大橋晃デザインによる家具、また彼のこれまでの建築物の一部のプロジェクト図面でいっぱいの図書館があります。伊東豊雄建築ミュージアムの一貫したテーマは、建築とデザインでいかに地元コミュニティを助けるか、というものです。これは、大三島で古い建物に新しい用途を見出し、島の伝統を保つために様々なグループと取り組んだ伊東の心の近くにあるテーマです。

伊東の設計にもっと触れたいという向きには、「岩田健母と子のミュージアム」が伊東豊雄建築ミュージアムから車ですぐの場所にあります。岩田の彫刻が収められたスパイラル形のこの建物も伊東の設計によるものです。